

2022 年度事業計画

(2022 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

【本部関係】

① 総会・理事会の開催

第 1 回理事会：2 月 1 2 日

定時総会：3 月 1 1 日

第 2 回理事会：3 月 1 1 日（総会直後） 理事の役割等

第 3 回理事会：9 月 予定

第 4 回理事会：1 2 月 予定 次年度予算等

② 刊行物・電子メディア等での発信

1. 会報

第 59 号 5 月発行（定期） 内容未定。春までに原稿受け付け

2. 名簿

2022 年度 11 月発行（定期）

3. ウェブサイト

同窓会ウェブサイトの「お知らせ」「問い合わせ」「各種届」欄などの充実、会の事業報告、会報・会誌アーカイブなど新設欄の検討、動画サイトの新設の検討、他組織とのリンク、Facebook との連動強化を図る。また、会員情報や会費の電子的取り扱いなどについての検討を進める。支部を含め、広く会員の投稿も積極的に推進する。

4. マスメディア

今後とも、重要案件等をマスメディアに対し、積極的に情報提供していく。

5. 発信体制

農学生緊急支援プロジェクトのバイト支援の一環として創設した「さっぽろ農学校リポーター」制度は、現在のリポーター 3 名体制をさらに拡充し、学年や学科にさらに広がりを目指し、リポーターの業務が年代を超えて持続可能なかたちをつくっていく。

③ 交流・親睦事業

新年交礼会（例年 1 月開催）は本年中止された。

新入会員歓迎会（例年 3 月開催）は中止。

総会報告会・新渡戸特別講演会は 9 月に延期を検討中＝4 月現在＝

親睦園遊会（例年 6 月開催）は中止。

元教授の会（例年 9 月開催）は 9 月を想定。

④ 母校への助成

農学研究院・農学院・農学部への助成を行う。このうち、大学院生海外渡航は申請のあった 8 件について、計 120 万円を助成する。

このほか、卒業・修了生用学位記ケース助成、クラーク農学賞図書券助成、外国人留学生交流会助成など、必要な事業に対して助成を行う。

⑤ 学会開催等への助成

学会開催助成については、申請のあった、菌根研究会札幌大会と日本造園学会全国大会に対し、計 28 万円を助成する。

⑥ 農業農学振興事業等への参画・助成

▼親子食農体験講座「あぐり大学」（原則奇数月）と市民公開講座「時計台サロン」（原則偶数月開催）などを展開している農学部・北海道新聞編集局連携事業には、引き続き、実行委員会への参加、各種助成等などを行う。

▼当会主催の「出張時計台サロン」は、道民カレッジの連携講座に登録し、講師料も定額であることから、道民への周知を積極的に行う。北海道銀行が全営業店舗での映像資料放映の機会を提供してくれたことから、これを積極的に活用していく。

▼新渡戸稲造先輩（1881＝明治 14＝年卒業）が遠友夜学校を開いた土地（現在の新渡戸稲造記念公園＝中央区南 4 東 4）に、「新渡戸稲造遠友館」（仮称）を建設する運動が、一般社団法人「新渡戸稲造と札幌遠友夜学校を考える会」中心に進められており、母校北大も、同館を大学サテライトとして、また SDG s を目指す北大のシンボルとして位置づけている。建築設計や建材への研究林木材の提供などの構想づくりも大学が着手している。この運動はまた、J A 北海道グループや北海道商工会議所連合会など経済界と行政機関の参画と強い関心の下に広がりを見せており、同窓会としては、建設及び施設運営、事業展開を含む運動全体を支えるべく、全面的に連携、協力していく。

⑦ 農学生緊急支援プロジェクト

学生院生たちの生活とバイト環境はいまだ厳しい状況が続いている。新型コロナウイルス感染拡大に伴う生活困窮に苦しむ農学生をサポートしようと、2020 年 5 月から取り組んでいる農学生緊急支援プロジェクトについては、今後とも、カンパや関連広告（会

報等)を受け付け、必要に応じて、農学生たちへの生活支援金支給、緊急バイト雇用、バイト情報提供などを行っていく。

会員諸氏と市民からの緊急支援カンパは目的指定寄付で、特別会計扱いであるが、取り組み内容によっては、一般会計からの支出も検討する。

⑧同窓会メディア拡充プロジェクト

北大創基 150 年の取り組みに貢献する札幌農学校以来の歴史的資料の整理と発信を進める上で同窓会メディアの拡充を進める。同時に、ウイルス感染予防の観点から対面交流を補完するメディアを通じた交流を促進する上でも重要性が高まっている紙とネットのメディア拡充を抜本的に進める。農学生のバイト雇用、必要な人材や機材の確保等も順次進める。

【東京支部関係】

新型コロナウイルス感染の状況を見極めながら、札幌農学同窓会東京支部は会員相互の交流及び知識の向上を図るため、2022 年度において次の事業を行う。

1. 通常総会の開催

2022 年 2 月 27 日 (日) 14 時 00 分～、オンライン (Zoom) 会議により開催の予定。

2. 理事会の開催

2022 年 2 月 6 日 (日) 10 時 00 分～、オンライン (Zoom) 会議により第 1 回理事会を開催。今後も新型コロナウイルス感染の状況を見極めながら対面方式、オンライン方式等の開催方式を検討しつつ、概ね 2 ヶ月毎に適宜開催する。

3. 講演会の開催

会員への情報提供の機会として、時宜に適したテーマによる講演会を実施する。

- 1) 例年 2 月の通常総会後に会場に参集して講演会を行っているが、昨年度と同様に今年度もオンライン (Zoom) 方式での開催とした。2 月 27 日 (日) の通常総会後に北海道大学副学長・国際及び SDGs 担当理事・SDGs 事業推進本部長 横田篤先生 (1979 年農芸化学科卒・1984 年農芸化学専攻博了) を講師として講演会を行う。演題は『北大発展の歴史と SDGs の推進に向けた取り組みについて』の予定。
- 2) 講師、演題、時期等を勘案し、適宜講演会を実施する。
- 3) 秋季に時宜に相応しいテーマで獣医学部同窓会との共催講演会を実施する。

4. 「女性同窓生オンラインお茶会」の開催

2021 年度と同様に女性会員向けの行事として継続し、適宜の間隔で開催する。

5. 修了・卒業祝賀会への支部代表の派遣

3 月 24 日 (木) の修了・卒業祝賀会に別所智博氏 (東京支部理事・1981 年農芸化学科卒) を東京支部代表として派遣の予定であったが、行事は中止となり派遣は行わない。

6. 関西支部主催「市民公開フォーラム」への支部役員派遣
毎年6月開催の「市民公開フォーラム」に東京支部役員を派遣する。
7. 「札幌アルムニレクチャー」への講師派遣
北大農学研究院主催「札幌アルムニレクチャー」は開催時期、規模等を検討中の模様だが、東京支部代表の派遣要請に従い講師を人選する。
8. 英文 Bushido 等の寄贈活動
農学部に進学する「新渡戸カレッジ」の学生および院生（合計約30名）を対象として、新渡戸稲造の世界的な名著である「Bushido」、内村鑑三の「代表的日本人」「後世への最大遺物」を寄贈する。
9. 札幌農学校普及委員会の活動
「札幌農学校」出版助成・普及頒布事業として、入学・進学時の学生、院生を対象として毎年4月に一括寄贈し、今後も同著書の普及頒布活動を継続していく。
10. 企画・交流委員会の活動
企画・交流委員会については、活動の充実を図るため、企画委員会と組織委員会とを統合・改称し2022年度に発足したところである。講演会等の企画、講師候補者の選定、支部代表の派遣候補者を検討するとともに支部活動の活性化は若手会員の増加が基本との考えに立って、特に平成卒会員と女性会員の拡充を図るよう、継続して東京同窓会等主催の各種行事の機会を利用して勧誘していくことに加え、農学部の特徴を生かした新規行事の企画を検討する。
11. 情報委員会の活動
東京同窓会情報処理委員会と引き続き連携を図り、札幌農学同窓会東京支部ホームページの充実を図る。また、新型コロナウイルスの影響で当面はオンラインでの行事開催や資料の電子化等、更なるIT活用を進める必要がある為、適切な運用体制の構築を図っていく。さらに、引き続き行事案内等を利用して東京支部会員のメールアドレス登録数の拡大を目指し、郵便からメールマガジン配信への転換を順次進めていくとともに、会員名簿整備のため本部情報担当理事との連携を強化する。
12. 会員名簿の整備
東京支部会員について行事案内ハガキによる移動・消息の把握に努め、「札幌農学同窓会員名簿」の正確性の向上に努める。
13. 懇親会
対面方式の講演会等が可能な場合、その開催の機会を利用し懇親会を行う。
14. 会員交流サロンの設置
札幌農学同窓会東京支部会員が自由に参加し、情報交換、意見交換を行う場として、「会員交流サロン」をオンラインで設置する。
15. その他
他の各種関係団体との連携を図る。

【関西支部関係】

(1) 通常総会の開催

2022年2月19日（土）に大阪ガーデンパレスにおいて通常総会を開催する。
コロナ禍の中ではあるが、感染防止対策を行い実施する。

(2) 講演会の開催

春季講演会は2月19日の通常総会に合わせて実施する。講師は山口利昭氏（S39年農経卒・関西支部理事）で演題は「70歳からの創業」である。

昨年コロナ禍のため延期となっていた秋季講演会は、3月19日（土）に関西同窓会と合同で実施する。講師は瀬戸篤氏（本会副理事長）、演題は「札幌農学校と起業家精神」である。

本年度の秋季講演会は、10月の関西同窓会総会に合わせ開催する予定である。

(3) 市民公開フォーラムの開催

コロナ禍により中止となっていた市民公開フォーラムは、6月25日（土）にフェニーチェ堺にて開催する。メインテーマは「泉州農業の豊かな魅力」とし、大消費地に近く様々な特産品もつ泉州農業の豊かな魅力を大阪府の農と緑の総合事務所と共に紹介する。泉州は日本で最初に玉ねぎの生産が始まった処であり、基調講演は日本の玉ねぎの権威である西村弘行先生（本会監事）による「玉ねぎは奇跡の野菜」と題する講演が行われる。

元気な泉州農家も登場し、農のSDGsへの取り組みなど、地域の食育活動や農福連携などを紹介し、地域農業の振興に資するフォーラムとする予定。

(4) 同窓会会費の納入促進と新入会員の参加促進

総会、市民公開フォーラム、講演会、懇親の場や案内状を送付するときを利用して、新規会員の勧誘と会費の納入促進を行う。また若年層や女性会員の参加を積極的に呼びかける。

(5) 本部との連携と大学行事への協力

総会、講演会、フォーラム等において本部との協力を進める。

新入会員歓迎会への派遣やアルムニレクチャーの講師派遣を行う。